

令和6年度

## 第6回大垣市社会教育委員の会 議事録

日時	令和7年2月25日(火) 10:00~12:00
場所	大垣市役所 6階 6-3.4会議室
次第	1 開会のことば 2 「大垣市民の誓い」朗読 3 教育長あいさつ 4 議事 (1) 1年の総括 ①社会教育主事講習を受講して ②社会教育推進事業の進捗状況 ③学校支援ボランティアの活動状況 ④スイトピア子どもクラブアンケート結果 (2) 大垣市第2次教育振興基本計画(社会教育分野)後期計画について (3) 令和7年度大垣市社会教育委員の会テーマと年間計画 (4) 意見交流 5 連絡事項 6 閉会のことば
出席者	【大垣市社会教育委員8名、事務局7名、計15名】 ・大垣市社会教育委員 佐野 篤、益川 浩一、竹中 昌子、稲川 明子、平野 宏司、松野 光宏、 井上 徹子、桑原 昌子 ・事務局 細江 敦(教育長)、平松 善幸(事務局長)、小倉 正裕(学校教育課長)、 小倉 伸子(社会教育スポーツ課参事)、田中 真貴(社会教育スポーツ課主幹)、 堀 佳奈(社会教育スポーツ課主事)、馬淵 公希(社会教育スポーツ課主事補)、
欠席者	【大垣市社会教育委員1名、事務局2名】 安藤 千博、林 昭義(社会教育スポーツ課長)、澤田 文彦(社会教育指導員)
傍聴者	【0名】
全員	杉田委員逝去に伴う黙祷
事務局	開会のことば
全員	「大垣市民の誓い」朗読

教育長	<p>教育長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉田連合自治会連絡協議会長は、上石津学園の設立に関わって非常にお力添えをいただいた関係で、個人的にも懇意にさせていただいた。杉田委員の遺志をしっかり受け継いでいきたい。心からご冥福をお祈りする。</li> <li>・令和6年度も残すところあと1か月余りとなった。この1年を振り返ると、コロナ禍で途絶えたものがほぼ再開し、様々な工夫をしながら社会教育活動が取り組まれている。</li> <li>・一方で、地域で様々な役割を担っている方々の高齢化やそうした活動に関心が全くない人もいることが課題である。地域のつながりや絆を作っていくことが重要であるが、どのように地域コミュニティを作り直していくかが課題である。</li> <li>・こうした中で、中学生や高校生にも、ある程度責任を持たせて活動させていただくと、生き生きと地域のために活躍する。若い世代が、地域のよさや誇りを味わうことで、その経験を生かして、いずれ地域のために活動してくれるのではないかと考える。</li> <li>・本年度最後の委員会となる。本日は、今年度の取り組みの総括と来年度に向けての今後の展望について、皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。来年度も是非、お力添えいただけるようお願い申し上げ、あいさつの言葉とする。</li> </ul>
事務局	<p>以下の議事については、佐野議長に進行をお願いする。</p> <p>※ 審議会公開の報告 ※ 傍聴人の確認</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度最後の社会教育委員の会であり、今年1年の活動の振り返りをお願いしたい。</li> <li>・議事(1)では、1年の総括として各社会教育事業について説明してもらう。議事(2)では、今年度2回の策定委員会において、委員からいただいた意見をもとに改定された、大垣市第2次教育振興基本計画（社会教育分野）後期計画について事務局から説明してもらう。</li> <li>・議事(3)では、令和7年度大垣市社会教育委員の会テーマと年間計画について事務局より説明したあと、委員の皆様から意見を伺い、今年度の活動の振り返りを進め、今後の改善点や方向性を明確にしていきたい。忌憚のない意見をお願いしたい。</li> </ul>

議長	議事(1)「1年の総括」について事務局から、説明をお願いします。
事務局 主事補	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の7月から8月にかけての約1か月、岐阜大学で行われた社会教育主事講習を社会教育スポーツ課馬淵主事補が受講したので、その報告をする。</li> <li>・ 参加費は10,000円。参加者は、自治体の職員、教員、公民館専任主事、大学生など幅広く、年齢も20代から50代程度と幅広い年齢層であった。</li> <li>・ 社会教育士は、地域の社会教育事業の企画・実施及び専門的な助言と指導を通し、地域住民の学習活動の支援を行う役割がある。</li> <li>・ 社会教育士の必要な資質と能力は、①人と人、組織と組織をつなぐコーディネート能力②人々の納得を引き出すプレゼンテーション能力③人々の力を引き出し、主体的な参画を促すファシリテーション能力の3つである。</li> <li>・ 今回の講習で印象に残った内容に関して3つ紹介する。</li> <li>・ 1つ目は、地域と学校の協働は、子どもの豊かな学び・育ちを保障し、教育目標を達成する「手段」であって、「目的」ではないということ。これまで実践・蓄積されてきた活動や地域の資源（人・団体・組織等）を再度洗い出すことの重要性を学んだ。</li> <li>・ 2つ目は、場の雰囲気や状況を敏感に読み取ったり、議論を発散させたり、収束させたりするなどのファシリテーションの技法について学んだ。聞く力を身につけ、状況に応じて議論を展開していくことが重要である。</li> <li>・ 3つ目は、公民館講座に人を集めるための解決策についてグループで話し合い、内容も重要だが、受講者を引き付けるタイトルの重要性を感じた。</li> <li>・ 大垣市では、社会教育推進事業に対して補助金の交付を行うことがメインであり、事業の推進は、地区ごとの社会教育推進員に任せていることが現状である。学んだことを活かし、社会教育活動の視察を積極的に行ったり、推進員に助言したりしていきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 続いて、「社会教育推進事業の進捗状況」について説明する。</li> <li>・ 社会教育推進事業は、令和6年度2月時点で64事業であり、66.7%の進捗率であった。上石津地域で0事業となっているのは、社会教育推進会議の主催ではなく、公民館事業として地域行事を行っており、地域社会教育推進事業補助金を使わずに実施しているため。</li> <li>・ ほとんどの地域で、コロナ前の通常実施状況に戻ってきており、平均実施回数は、3.0となっている。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、社会教育推進員の改選の年であり、後任者選びが各地域の課題となっている。若い世代にバトンタッチしていくためにも、学校や子ども会などと連携をとり、子どもが参加できる事業を計画し、その親の参加も促すことで、若い世代を巻き込んだ、より活性化した地域社会教育を推進していくことが重要である。</li> <li>・今後は、より地域の現状を研究しながら、具体的な実践事例を紹介し、モデル事業を活用してもらえようように声がけしていき、令和元年度の 83 事業 86%の進捗率まで回復できるようにしていきたい。</li> <li>・続いて「学校支援ボランティアの活動状況」について説明する。</li> <li>・ボランティア登録数は、小・中・義務教育学校合わせて計 1,200 名以上であり、ボランティアの実績は、28 校合わせて延べ 2,700 人の参加があった。</li> <li>・コロナ禍も終わり、活動が戻ってきたここ 2 年程、学校支援ボランティアの更なる充実に向けて、「新しいボランティアの発掘」「学校、PTA、地域関係者との連携」を課題にして取り組んでいる。</li> <li>・コーディネーターと学校、会員、地域との連携は、少しずつ確実に進んでいる。学校の状況や今までの歩みも踏まえて活動を仕組んでもらっており、ボランティアのよさを感じている方が多い。子どもたちと一緒に挨拶運動をしたり落ち葉清掃をしたりする活動も新たに出てきた。</li> <li>・PTAと協働する動きも増えており、PTAを卒業しても残ってもらえるよう働きかけをしていき、新しいボランティアを発掘する流れもできている。</li> <li>・募集チラシや活動報告を地域に配付する学校も増えてきた。学校を取り巻く状況も理解しながら、ボランティアの活動が少しでも活発になるように、今後もこのような取組を継続していきたい。</li> </ul>
事務局 担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、1月に今年度の活動を終えた、スイトピア子どもクラブにおいて、参加した子どもたちにアンケートをとったので、その結果について担当より説明する。</li> <li>・発明からSDGsクラブまで全 12 クラブを開講し、受講者数は 231 人であった。</li> <li>・一年間の受講を終えた満足度調査では、とても楽しかったが 80.1%、楽しかったが 18.2%、楽しくなかったが 1.7%であった。多くの受講生が楽しいと感じており、学校外の課外クラブとして良い事業となっている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座内で印象に残った内容をアンケートした結果、科学1のスライムやチャレンジクラブのデコレーションケーキは、非常に受講生から人気のある内容だった。</li> <li>・全体の感想としては、他校の児童と仲良くなれた、学校では体験できない体験をすることができた、毎月のクラブを楽しみにしていたなど肯定的な意見が多くあった。一方で、難易度が高い内容があり難しかった、気が合わない児童がいたなどの意見もあった。</li> <li>・令和7年度のクラブ開設に向け、アンケート結果を参考にし、参加してよかった、来年も参加したいと多くの受講生が感じられるように講師と連携して取り組んでいく。</li> </ul>
議長	全体を通して質問があればお願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育主事講習とは、資格取得のための認定講習なのか、フォローアップ研修なのか、どのような性格のものか。</li> </ul>
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育主事講習を受講することで、社会教育主事としての任用資格と社会教育士としての資格の両方を得ることができる。社会教育主事は行政職であり、発令して初めてなるものである。社会教育士は誰でも一般の方でも名乗れる称号である。</li> <li>・職業として社会教育に携わる方だけでなく、ボランティアとして携わっている方も多く受講している。</li> <li>・東海4県持ち回りで、国立大学で開講している。どの大学でも同じ内容で同じくらいの費用で行っている。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大垣市には、これまで社会教育主事や社会教育士の資格を取っている方はどのくらいいるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べればわかるかもしれないが、把握はしていない。今年度は、一般の方も含め4名が受講していることがわかっている。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有資格者同士が学んだり、一緒に活動したりするネットワークが構築されるといいのでは。</li> </ul>
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県でも課題となっている点であり、有資格者を把握して、年に1回研修会を設けている。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員OBの中には、有資格者がいると認識している。せっかく資格を取っても、埋もれてしまうのはもったいない。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主事とは違い、民間の方が社会教育士として活動するには、どのようにモチベーションを維持していくのか。</li> </ul>
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の中でボランティアとして活動する中で、社会教育士としての称号があることで信頼も厚く、学んだことを生かして活動の幅を広げることができる。スキルアップによって、信頼度も上がる。地域コーディネーターとしての働きをする中でもよいバックアップとなる。</li> </ul>
議長	議事(2)「大垣市第2次教育振興基本計画（社会教育分野）後期計画」について事務局より説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、社会教育分野の策定委員会として、7/16と9/27の2回会議を開催し、審議していただいた。その後、各分野の意見等を取りまとめ、全体会議を開催し、1月にはパブリックコメントを実施した。今後は、定例教育委員会、3月の市議会で報告ののち、3月末に計画の内容が決定となる。そのため、現時点では計画案ではあるが、2回目の策定委員会以後に変更となった点を説明する。</li> <li>・まず1点目は、前期計画から構成を見直し、基本方針のⅠとⅡが入れ替わっている。コロナ禍により、体験活動や対面交流が減少し、多様な人とのつながりやかかわりが失われ、現在その回復途中である中、個人のみならず、個人を取り巻く地域や社会が豊かさを感じることができる「ウェルビーイング」を向上することが求められている。このため、大垣市の教育においても、人間性や心の豊かさを育むことをこれまで以上に大切にし、「多様性を尊重し思いやりとたくましさのある、心豊かな人」を1番目に挙げた。</li> <li>・2点目として、指標と目標値に、新たに子ども会リーダースクールとスイトピア子どもクラブの満足度を測っていくこととした。満足度だけでなく、引き続き参加人数の推移も見ていくことし、それぞれ項目を追加している。</li> </ul>
議長	議事(3)「令和7年度大垣市社会教育委員の会テーマと年間計画」について事務局より説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、大垣市社会教育委員の会のテーマは、「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」～ウェルビーイングの実現に向けた人・地域のつながりづくり～として、2つの視点で多くの意見をいただきながら、会を進めていくことができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ目の「地域の文化と地域施設を活かし、郷土に誇りをもった人材育成を行うには」では、7月に「奥の細道むすびの地記念館」施設見学を行い、施設利用にかかわって、「若い世代や子どもたちの地域施設の利用や郷土文化に触れる機会を増やすには、どのようにPRするとよいか。」について多くの意見をいただいた。</li> <li>・二つ目の「家庭の教育力を高めるための家庭教育支援体制の確立を推進するには」では、9月に義務教育学校上石津学園を視察し、上石津地域学園協働本部三宅会長より、協働本部の活動について説明を聞いた。地域の願いをうまく具体化してコーディネートしていくことで、地域の方も保護者の方もボランティアに参加しやすくなっていく。学校支援コーディネーターの役割が非常に重要。今後は、子どもたちと地域が触れ合う活動が広がっていくと、ますます地域のつながりが深まっていくのではないかな等の意見があった。</li> <li>・そこで、令和7年度の方向性として、次の2点を考えた。</li> <li>・一つ目、地域の未来を担う「子ども」を中心におくことで、学校と家庭と地域が手を携えていくことができる大人のつながりをつくりだし、「地域が一体となった子育て」をめざす。すなわち「つながりづくり」として、学校支援ボランティアや地域学校協働活動、家庭教育支援に焦点をあてる。</li> <li>・二つ目、子育て世代や高校生、大学生などの若い世代をどのように社会教育に巻き込んでいくか。すなわち「人づくり」として、子ども会リーダースクールやジュニアリーダーズの活動、夏休み学習支援や子育てサロンでの学生ボランティアなどに焦点をあてる。</li> <li>・以上のことから、大垣市社会教育委員の会令和7年度テーマを、6年度と同じ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」～ウェルビーイングの実現に向けた人・地域のつながりづくり～としたい。</li> <li>・視点は、一つ目が「地域のつながりづくりを充実させる家庭教育支援の在り方」。二つ目は、「地域のつながりを大切にする人づくりのための生涯学習機会の充実」としたい。</li> </ul>
議長	<p>議事(4) 意見交流に入る。これまでの議事全体にかかわって、それぞれの立場から意見を伺いたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の立場から言うと、地域とのつながりがますます重要になってくると感じており、地域のつながりづくりをするために、学校としてどのようなこと</li> </ul>

	<p>をしていけばよいのか考える必要がある。例えば部活動の地域展開に関わって、学校と地域が連携して地域の中で子どもを育てていくことが大切である。部活動を通して、地域とのつながりを深めていけるとよい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者不足が大きな課題であり、今地域で行っている活動も継続していけるのか不安である。若い人たちもつながりを作りたいと思っていると思うが、どのようにつながればよいのかわからない。若い人同士、高齢者同士のつながりはあるが、それが交わっていかない。これまでにできたコミュニティに新たに足を踏み入れる勇気もいる。また、独居の高齢者も増え、家庭の中でも若い人が高齢者と関わるのが乏しいのに、まして地域でどのように高齢者と関わっていけばよいのかわからない若い人が多いと思う。どうやって交わればいいのか方法が知りたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で自治会長をしており、福祉推進員が主催して年に数回「生き生きふれあいサロン」を開催しているが、集まるのは高齢者が多い。それでもクリスマス会などの子どもが参加できる行事も企画していく中で、親子でふれあいサロンに参加する若い世代も増えてきた。参加者当事者の思いはどうかを視点において活動を仕組んだ結果である。子どもをどのように活動に参加させるか考えていくことも大切なのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から子どもに地域行事に参加するよう促してもらおうと参加しやすいのではないか。学校にお願いしても、あまり受け入れてもらえないのが実情ではある。子どもがボランティアなどに参加しても、学校の先生がその様子を見に来てもらえるとより励みになる。無関心な親世代への働きかけは、PTAがやっていく必要がある。つながりづくりは簡単ではない。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代を地域の中で育てていかなかったことが原因なのか、若い世代の無関心さが原因なのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代に経済的余裕がなく、平日働く母親も多い。土日まで地域行事に参加する余裕もないのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興基本計画の基本方針に、「心豊かな人づくり」とあるが、そういう人を育てるための具体案を考える必要がある。昔は、地域コミュニティの結</li> </ul>

	<p>束が強く、結婚して他地域から来た時に疎外感を感じた覚えがある。人とのつながりの基本であるコミュニケーションのとり方など、市内に転入してきた人と以前から住んでいる人との間の壁、また世代間の壁をどうやって取り除くかを考えていく必要がある。また、市政も含めて様々な取組に対し、市民の意見を聞く際の聞き方や発信の仕方も言葉が不足している気がする。例えば部活動の地域展開についても、子どもたちに何を求めていくのかなど、地域住民が理解していないといけない。地域行事に子どもを参加させる際にも、参加させることで子どもたちがどのような力をつけていけるのか情報発信していく必要があるのではないか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度のテーマ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」は意義のあるテーマだと思う。社会教育士の活用も地域をつなぐ上で鍵となるのではないか。家庭教育支援の在り方として、今年度、自社で企業内家庭教育学級を実施したが、非常に好評であった。働く者が、企業で時間をとって地域のことや家庭教育のことを学べたことがよかった。こうしたことを広げていけるとよいのではないか。また、生涯学習機会の充実として、民間の力も十分に使っていけるとよい。大垣市としても、教育委員会だけでなく、商工観光課や市民活動推進課と連携していくことも重要である。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育振興基本計画の基本方針にある、「生涯学び、いきいきと活動できる、健康な人」は、良い言葉であり、まさにウェルビーイングを表している。これを令和7年度のテーマと整合させて、いきいきと活動できる健康な人をつくっていくために7年度としてどうあるべきかを考えていけるとよい。地域学校協働活動を他の地域にも広げていくこと、コミュニティスクールをつくることも一つの手段ではないかと思う。社会教育委員として、各地域で人々のウェルビーイングのためにどうあるべきかは常に問いかけていかなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育支援を前面に出しながら7年度のテーマを設定している点がよい。人とのつながりは、お互いの安心感がないとつくりにくい。その安心感は、成功体験や失敗体験など同じ体験を繰り返す中で生まれるもの。安心感や信頼感の積み上げの上でつながりができてくる。そのためには、地域と学校、子どもと一緒に協働活動をしていく機会を増やしていくことが大切。子ども</li> </ul>

	<p>も、地域の方々も忙しいということであれば、学校の取組に社会教育がどのように関わっていくかを考えていくといい。地域の方も、子どもや孫のためなら関わってくださるし、子どもにとっても、一緒に活動することで満足感、自己有用感が生まれ、お互いにとってウェルビーイングな関係ができていくのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動を核として地域に広げていけるとよい。地域と子どもたちが一緒に何かに取り組む時には、願いを一つにしたり、方向性を確かめ合ったりするために話し合う場が必要であり、学校運営協議会のような存在も大切となってくる。</li> <li>・学校から地域や家庭に、学校での取組を周知させることも重要である。新たな人材発掘にもなるし、実際活動している人にとってもモチベーションが上がる。情報提供も人材確保の一つの手段だと思う。</li> <li>・高校も大学も地域の中で学んでいるので、地域で育てていただく場を求めている。うまく連携がとれると、学生を社会教育に活躍させることはできる。</li> <li>・大垣市の学校支援コーディネーターや社会教育推進員のような組織は他の自治体にはなかなかあるものではない。子育て支援も充実しているので、うまくつながりに生かしていけるとよい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールについての計画はあるか。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上石津での地域学園協働活動の取組をもとに、さらに研究していきながら他の地域でも組んでいけるとよい。小学校から中学校の9か年で分断がないように組みたい。校区の組み分け方がそれぞれ違うので、それぞれの地域にあったやり方で展開を考えていきたい。</li> </ul>
議長	<p>議事の全てを終了する。</p>
事務局	<p>以上をもって、第6回大垣市社会教育委員の会を閉会する。</p>